

開所30周年を迎えて

所長 村木 生久

昭和59年11月、埋蔵文化財の発掘調査や普及啓発の拠点施設として、吉備の中山の中腹に岡山県古代吉備文化財センターが開所して、今年で30周年を迎えました。

発掘調査30年の歩みを振り返りますと、最初の10年間は、山陽自動車道を中心に、中国横断自動車道などの高速道路網の整備や県立大学開学のための調査など、急激な事業量の増大に伴う調査体制の強化が図られた時期であり、次の10年間は苫田ダムや美作岡山道路をはじめとする公共事業に加えて、岡山国体に向けた県陸上競技場等の整備などに伴う大規模な調査が重なり、調査面積・調査員数・事業費ともにピークを迎えた時期でありました。最近の10年間では、国道180号バイパス改築などの開発事業に伴う調査のほかに、鬼ノ城や岡山後楽園の史跡整備のための調査にも取り組んでまいりました。

このように本県の埋蔵文化財発掘調査の歴史は、国や県の公共事業などによる岡山県の発展とともに刻まれてきており、膨大な量の出土品と大きな調査成果を蓄積しております。

調査成果は、現地説明会や報告会として公開しているほか、子どもたちには、火起こし、鏡づくりや勾玉づくりなどの体験学習や現場での発掘体験、職場体験、出前授業を通して遺跡や遺物を体感する機会を提供するなど、その活用に努めております。

また、埋蔵文化財の情報については、ホームページやおかやま全県統合型GISにより、周知を図っていますが、新たに昨年度からは中世城館跡の総合調査を開始し、遺跡地図情報等の充実と調査成果の提供に取り組んでまいります。

さらに、今年度は開所30周年記念事業として、連続講座「ここまで分かった古代吉備—倭人伝の時代」を開講したほか、シンポジウム「三世紀の吉備を読み解く」や県立博物館秋季展において、これまでの蓄積された調査・研究成果を集大成したところであります。

今後とも、埋蔵文化財に関する専門機関として、発掘調査はもとより積極的な公開・活用を通して普及啓発や情報発信に努め、県民の皆様の期待に応えてまいりたいと存じますので、関係各位の御指導・御助言を賜りますようお願い申し上げます。



古代吉備文化財センター外観（北東上空から）

連続講座

「ここまで分かった古代吉備 –倭人伝の時代–」

平成26年7月26日（土）に「吉備の弥生集落」、「吉備のマツリ」、8月9日（土）に「吉備の王墓」、「古墳出現前夜の吉備」をテーマとして、連続講座「ここまで分かった古代吉備 –倭人伝の時代–」を県立博物館講堂で開催しました。第1回目は非常に暑い日で、第2回目は土砂降りであったにもかかわらず、2日間で延べ220人以上の方々にご参加いただきました。

吉備の弥生集落～足守川下流域を中心として～

いわゆる『魏志』倭人伝に卑弥呼が活躍したと記される3世紀は、最近の研究成果から弥生時代終末～古墳時代初頭に相当することが明らかにされています。近年急速に蓄積された発掘データからは、この時期に列島規模での頻繁な人の動きがあったことが分かってきていますが、前方後円墳の成立に象徴される初期国家の成立直前に大きな社会的変化が起きていたことが予想されます。

吉備では、弥生時代後期に集落に大きな変化が起こります。足守川下流域では、竪穴住居数の推移から急激な人口増加を指摘できますが居住域は平地部、墓域は丘陵部といった集落要素の固定化も始まります。また、波止場状遺構が当時の海岸線付近の倉敷市上東遺跡に築かれたり、製塩や鍛冶などの各種手工業生産の痕跡も認められたりすることから、集落を構成する諸要素が計画的に配置された「都市」的な景観が生まれたことを想定できます。このあり方は、九州北部の比恵・那珂遺跡群や近畿の纏向遺跡群などと類似したものであり、3世紀に瀬戸内海を介した交流が活発化するのはいこれらの地域が密接につながりをもっていたためと考えられます。（河合 忍）



集落域と墓域の分離状況（弥生時代後期：足守川下流域）

吉備のマツリ

弥生時代中期の吉備では、近畿地方を中心に分布する銅鐸や瀬戸内海沿岸地域の平形銅剣、吉備を中心に分布する分銅形土製品を使用するなど、独特のマツリを行っていました。それらは、ムラにとって象徴的な祭器であり、マツリで最も重要な役割を果たしました。

後期になるとマツリの様相が変わります。それまでのムラの祭器は衰退し、撥形文や弧帯文などの特徴的な文様や特殊器台・特殊壺が登場します。新たな吉備のマツリは、独自の世界観のもと、神秘的な能力を持つ人物を頂点にして行われました。

そのため、その人物を手厚く葬り、能力を次に継承するための葬送儀礼が、ムラやクニにとってたいへん重要になりました。

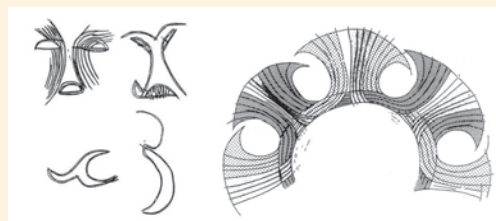
（柴田英樹）



突線流水文銅鐸
（高塚遺跡）



分銅形土製品
（加茂政所遺跡）



人面や龍など
吉備の世界観を表した絵画？

ムラの象徴的祭器

吉備の王墓

各集落ごとに行われた銅鐸や分銅形土製品などの祭祀は、やがて王墓と呼ぶべき大型墳墓での祭祀に集約され、のちに前方後円墳へ引き継がれます。この大型墳墓の代表が、備中南部（現倉敷市）に位置する楯築墓です。楯築墓以前の吉備の墓制は、方形墓（一辺15m前後）に集団墓が隣接するのが一般的でした。その中で突如、築造当初日本列島で最大の規模を誇る全長約80mの墳丘が築かれるのです。楯築墓は規模だけではなく、双方中円の墳形、木槨構造の埋葬主体、多量の朱の使用、特殊壺・特殊器台など、吉備の伝統だけでは考えられない要素を多く含んでいました。

楯築墓以後、吉備では鯉喰神社墓などを中心に再び方形の墳形に戻り、また依然として集団墓と隣り合わせになる墳墓が多く見られます。一方畿内では、楯築墓の影響を強く受け継いだと思われる墳墓が次々と生まれ、やがて前方後円墳に繋がります。今では、楯築墓こそ前方後円墳の祖型という考え方が主流を占めつつあるのです。

（小林利晴）



楯築墓

古墳出現前夜の吉備

日本列島の各地に古墳が出現したとみられる3世紀には、クニを越えて列島や東アジアの規模で人々が積極的に行き交い、それに伴ってモノも動くことが県内外の発掘調査成果の蓄積によって明らかになりつつあります。例えば、岡山市の津寺遺跡や百間川原尾島遺跡をはじめとする吉備の諸集落に列島各地から運び込まれた土器、あるいは近畿の奈良県纏向遺跡や大阪湾沿岸、北部九州、四国、山陰などの各地域へ運ばれた吉備の土器は、吉備と各地域の人々が目的を持って移動し、活発に交流していたことを物語る資料として評価されるほか、『魏志』倭人伝に記された国々の「市（いち）」を想像することもできます。

こうした交流の背景の一つには、奈良県箸墓古墳に代表されるような巨大な前方後円墳が成立することをきっかけとして、近畿を中心とする古墳時代の社会へと大きく移り変わっていくことがあげられ、その社会変動に吉備が深く関わっていたと考えられます。

（米田克彦）



各地から吉備に運び込まれた土器（津寺遺跡）

国道180号改築に伴う発掘調査Ⅲ

おしかべ
刑部遺跡・神明遺跡

総社市刑部・福井

総社市井尻野から岡山市北区榎津間に計画されている一般国道180号総社・一宮バイパスのうち、今回建設が予定されている総社市小寺から総社間の約2kmの区間には神明遺跡と刑部遺跡の二つの集落遺跡があります。

刑部遺跡の発掘調査は2年目となり、終盤を迎えつつあります。これまでに弥生時代後半～古墳時代前半の竪穴住居や掘立柱建物などが多く見つかり、ヒスイ製の勾玉や曲刃鎌など他地域との交流が窺える品も出土していることから、当地域でも有力な集落であったという事が解ってきました。

さらに、今年7月に調査した弥生時代終わり頃の竪穴住居からは中国製の鏡の破片が出土しました。割れ口を磨いて再加工した「破鏡」と呼ばれるものです。一辺3cm程度の小さな破片ですが、復元すれば直径20cm前後の大きな鏡だったようです。破片になっても鏡の霊力が宿っていると信じていたのでしょうか。県下における集落遺跡からの鏡の出土例は少なく、20例しかありません。しかも弥生時代の集落遺跡からの中国鏡出土は初めてとなり、大変貴重な調査例です。また、吉備弥生社会の中での刑部遺跡の位置付けを考える上でも、重要な資料となります。

一方、今年4月から神明遺跡の発掘調査も始まりました。刑部遺跡と同じく弥生～古墳時代の集落遺跡と考えられていましたが、その頃の竪穴住居などに加え、奈良時代の掘立柱建物や溝も見つかり、刑部遺跡とはまた違った側面が見えてきました。神明遺跡の調査はこれから本格化し、来年まで続きます。今後の調査にご期待ください！

(渡邊恵里子)



刑部遺跡出土破鏡（実物大）



破鏡が出土した竪穴住居（北から）



神明遺跡とバイパス予定地（東から）

センター・津島やよい広場見学

4月から6月にかけて、岡山市・倉敷市・玉野市の主に小学校6年生が当センター施設や津島やよい広場の見学に訪れました。本物の弥生土器に触ったり、復元された建物を見学したりすることで、授業で習ったばかりの弥生時代や古墳時代の理解に少しでも役立てたと思います。

古代吉備文化財センターの見学



展示室



遺物収蔵室



屋外移築石棺

津島遺跡（津島やよい広場）と遺跡&スポーツミュージアムの見学



復元された建物



土器に触る



ミュージアムエントランス

大学との連携と教職員研修の受け入れ

7月の2日間、大学との新規連携事業として、センター見学説明及び博物館実習の実測と写真撮影への協力を行いました。はじめて行う須恵器の実測や弥生土器の写真撮影に、真剣に取り組む学生の姿がありました。

また、7～8月の夏休み期間には、3つの教育機関の教職員研修を受け入れました。センターにおいて、講義や見学、土器の復元体験を行ったほか、鬼ノ城や造山古墳での見学説明も行いました。



須恵器の実測（大学）



展示室の説明（教職員）

こども体験教室「光りかがやく鏡をつくろう！」

5月24日（土）、古代吉備文化財センターにおいて、こども体験教室「光りかがやく鏡をつくろう！」を開催しました。当日は、小学校5・6年生とその保護者及び中学生の合計25名が参加しました。

はじめに、弥生～古墳時代の鏡についてその歴史や役割、出土例などの説明や、鏡づくり体験の方法について話を聞き、その後体験を行いました。体験は、現代的に簡易にアレンジされているものの、基本的には弥生～古墳時代と同じ「铸造」という方法で行いました。溶かした合金を鋳型に流し込む作業にはちょっとしたコツが必要ですが、皆さん上手くコツをつかめたようです。冷えて固まった鏡を鋳型から取り出した瞬間、思わず笑顔がこぼれる場面も多く見受けられました。その後、鏡面を磨き上げる工程では、手を真っ黒にしながらか熱中していました。

短い時間でしたが、体験を通じて、弥生～古墳時代のモノづくりについての理解が深まり、思い出のひとつになったでしょうか。



溶かした合金を鋳型に流し込む



鋳型から取り出す



磨き上げて完成！

展示室から 一平成 26 年度の企画展示一

センターの展示室では、年3回の企画展を予定しています。今年度は、企画展1で昨年度報告書を刊行した遺跡から百間川沢田遺跡・原尾島遺跡を取り上げ、「弥生の環濠集落—百間川沢田遺跡ほか—」を開催しました。現在は、センターで開講している講座「古代～中世の考古学」に関連する展示として、企画展2「古代の寺院と官衙」を開催中です。企画展3では「吉井川流域の遺跡（仮）」と題し、昨年度報告書を刊行した辺谷・成ル遺跡ほかを紹介する予定です。ぜひ、お越しください。



企画展1の様子

企画展1

「弥生の環濠集落—百間川沢田遺跡ほか—」

展示期間 4月22日（火）～8月17日（日）

展示品 縄文土器・弥生土器・土師器・石器・木製品・土製品・玉類ほか

企画展2「古代の寺院と官衙」

展示期間 8月19日（火）～12月25日（木）

展示品 須恵器・土師器・瓦・帯金具

企画展3「吉井川流域の遺跡（仮）」

展示期間 1月6日（火）～4月19日（日）

展示品 弥生土器・土師器・石器ほか

最近刊行された報告書（平成25年12月、平成26年3月発行分）

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」239 『百間川原尾島遺跡^{ひやっけんがわらおしま}8・百間川沢田遺跡^{ひやっけんがわさわだ}6』（岡山市）

百間川原尾島遺跡では、弥生時代後期から古墳時代前期の集落を確認しました。さらに弥生時代前期の貯蔵穴と思われる方形土坑群や、弥生時代前期から後期の水田を検出しています。百間川沢田遺跡では、弥生時代前期の環濠集落の北半部を確認し、以前の調査と併せて環濠集落の全容が明らかになりました。また、この集落廃絶後には県下で2例目となる円形周溝墓を検出しています。

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」240 『辺谷製鉄遺跡^{へたに}・辺谷中田遺跡^{へたになかんだ}ほか』（赤磐市）

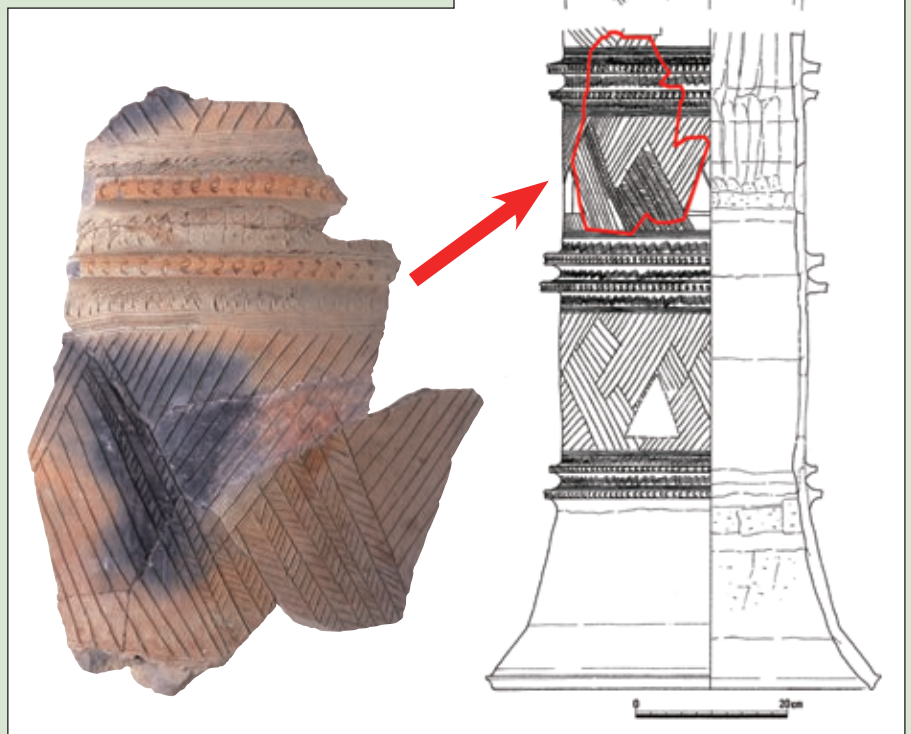
辺谷製鉄遺跡は7世紀の初頭の製鉄跡で、土坑・作業場・排滓場などを検出し、原料の磁鉄鉱石^{じてつこう}や鉄滓^{てつさい}・炉壁^{ろへき}が大量に出土しました。辺谷中田遺跡は縄文時代から近世にかけての集落遺跡です。弥生時代中期から古墳時代後期にかけて、吉備南部地域や播磨地域との交流がうかがえる遺構や遺物が確認されています。

センター収蔵品紹介 vol.16 ー津島遺跡出土の特殊な壺・器台ー

津島遺跡は、岡山市北区の岡山県総合グラウンド一带に位置しています。平成12年度の陸上競技場調査区の発掘調査で弥生時代後期の河道から出土した「特殊な壺・器台」を紹介します。

この土器は、精製した粘土^{もみ}に^{わら}を混和した胎土を持つことから、日常に使用される土器と容易に区別することができ、頸部・胴部に突帯を廻らせて鋸歯文・波状文^{きょしもん}で装飾された壺と、筒部には2条一対の突帯を廻らし、鋸歯文を意識した文様帯で構成された高さ1mを超える器台が復元されました。時期は弥生時代後期後葉～末葉と考えられ、形態は同時期の吉備の首長墓で葬送儀礼の道具立ての一つとして用いられた「特殊壺・特殊器台」を思わせます。これらは、胎土や文様帯の構成、プロポーシオンに至るまで高い共通性を持ちますが、津島遺跡の特殊な壺・器台とは異なる特徴を持つもので、この差異は、祭祀の格差をあらわしたのでしょうか。

津島遺跡出土の特殊な壺・器台の胎土中の^{もみ}や^{わら}は、五穀豊穰を願ったことを彷彿とさせますが、器台を用いる祭祀の中心は集落内での農耕祭祀から墳丘墓での葬送儀礼祭祀へと変化したと考えられており、農耕祭祀がもはや祭祀の中心では無いことを語るかのようです。（團 奈歩）



特殊な器台 右は推定復元図（1/10）

平成26年度の組織と業務

所長	次長	総務課	総務班	施設維持・管理、庶務、会計
	参事	調査第一課	第一班	普及啓発、収蔵管理、市町村指導、県内遺跡確認調査
			第二班	普及啓発、収蔵管理、市町村指導、県内遺跡確認調査
		調査第二課	第一班	岡山県中世城館跡総合調査
			第二班	一般国道374号（美作岡山道路）道路改築【上相遺跡・鍵谷遺跡ほか】 ＜発掘調査・報告書作成＞ 県営住宅原尾島団地第3次建設工事【百間川原尾島遺跡】＜報告書作成＞ 岡山県中世城館跡総合調査
		調査第三課	第一班	一般国道180号（総社・一宮バイパス）改築工事【刑部遺跡・神明遺跡】＜発掘調査＞
			第二班	一般国道180号（総社・一宮バイパス）改築工事【刑部遺跡・神明遺跡】＜発掘調査＞

<職員>

所長	村木 生久
次長	大崎 智浩
(総務課長事務取扱)	
参事	光永 真一
(文化財保護担当)	
総括参事	島崎 東
(調査第一課長事務取扱)	

総務課

総務班

総括主幹（班長）	岡部 一
主任	宮岡 佳子
主事	山内 基寛
臨時職員	中西 愛莉
	岡 伸美

調査第一課

第一班

総括副参事（班長）	高田 恭一郎
主任	小嶋 善邦

第二班

総括主幹（班長）	尾上 元規
主任	石田 爲成
(文化財課本務)	
臨時職員	平井 秀久

調査第二課

課長

亀山 行雄

第一班

総括副参事（班長）	澤山 孝之
主任	米田 克彦

第二班

総括副参事（班長）	氏平 昭則
主任	上楯 武

調査第三課

課長

弘田 和司

第一班

総括副参事（班長）	柴田 英樹
主幹	小林 利晴
主任	團 奈歩
主任	松尾 佳子
主事	井田 智

第二班

総括副参事（班長）	渡邊 恵里子
主幹	杉山 一雄
主任	河合 忍

メールマガジン「大地からの便り」読者募集中!



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交通案内 JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分

JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM8:30～PM5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
ただし、臨時に休館することがあります。

